

令和3年12月 気仙沼商工会議所 景気動向調査 概要版

(令和3年度第3四半期：令和3年10月～12月期実績、令和4年1月～3月予測)

全業種値が上昇、状況回復の兆し

製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業・水産加工業に属する会員の中からそれぞれ6業種より20事業所ずつ合計120件を対象とし、うち94事業所(回答率78.3%)より回答。

調査項目は、①業況(自社)②売上額(建設業は完成工事(請負工事)額)③採算(経常利益)④資金繰り⑤従業員(含 臨時・パート)⑥経営上の問題点について調査を行った。

☆分析方法…【DIとは「増加(上昇、好転)」と答えた企業割合から「減少(低下、悪化)」と答えた企業割合を差し引いた値です。DIは0を基準としてプラスの値は景況が上向き傾向の企業割合が多いことを示し、マイナスの値は景況が下向き傾向の企業割合が多いことを示します。

〈前回値と比べ「好転↗」・「不変→」・「悪化↘」で表示

	業況DI			売上額DI			採算DI		
	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通
	10月～12月	昨年10月～12月と比較	1月～3月予測	10月～12月	昨年10月～12月と比較	1月～3月予測	10月～12月	昨年10月～12月と比較	1月～3月予測
全業種値	▲31.6 ↗	▲20.7 ↗	▲12.0 ↗	▲34.8 ↗	▲19.6 ↗	▲7.6 ↗	▲15.2 ↗	▲21.7 ↗	▲14.1 ↗
①製造業	±0.0 ↗	5.9 ↗	▲17.6 ↘	±0.0 ↗	5.9 ↗	▲11.8 ↗	29.4 ↗	5.9 ↗	▲17.6 ↘
②建設業	▲47.4 ↘	▲57.9 ↘	▲63.2 ↘	▲57.9 ↘	▲57.9 ↘	▲52.6 ↗	▲21.1 ↘	▲57.9 ↘	▲57.9 ↘
③卸売業	▲46.2 ↗	▲7.7 ↗	15.4 ↗	▲46.2 ↗	▲7.7 ↗	30.8 ↗	▲15.4 ↘	▲23.1 ↗	15.4 ↗
④小売業	▲60.0 ↗	▲53.3 ↗	13.3 ↗	▲66.7 ↗	▲46.7 ↗	±0.0 ↗	▲46.7 ↗	▲60.0 ↗	▲13.3 ↗
⑤サービス業	▲43.8 ↗	▲12.5 ↗	▲18.8 ↗	▲50.0 ↗	▲18.8 ↗	▲25.0 ↗	▲37.5 ↗	▲6.3 ↗	▲25.0 ↗
⑥水産加工業	16.7 ↗	16.7 ↗	25.0 ↗	25.0 ↗	25.0 ↗	41.7 ↗	±0.0 ↘	25.0 ↗	41.7 ↗

【業況判断(業況DI)】

○当期の水準は、全業種値▲31.6、前年同期比は▲20.7となっており、業種別で見ると当期の水準の「水産加工業」でDI値16.7のプラスの値を、「製造業」で±0.0を示すものの、「小売業」で▲60.0等、他4業種ではマイナスを示した。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲12.0となり、「建設業」では▲63.2と厳しい見通しとなっている。一方、「卸売業」「小売業」「水産加工業」はプラスの見通しとなった。

【売上額DI】

○当期の水準は、全業種値▲34.8、前年同期比は全業種値▲19.6となっており、業種別で見ると「水産加工業」で前年同期比DI値25.0のプラスの値を示すものの、「小売業」で▲46.7等、他の業種では厳しい状況となっている。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲7.6となっており、業種別にみると、「水産加工業」は41.7を、「卸売業」では30.8とプラスを予測している一方、「建設業」では▲52.6、と厳しい見通しを予測。

【採算DI】

○当期の水準は、全業種値で▲15.2、前年同期比は全業種値▲21.7となっており、前年同期比で「水産加工業」25.0、「製造業」5.9とプラスを示すものの、「小売業」▲60.0、「建設業」▲57.9等、他の業種ではマイナスを示した。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲14.1となっており、業種別にみると、「水産加工業」は41.7を、「卸売業」では15.4とプラスを予測している一方、「建設業」では▲57.9と厳しい見通しを予測。

【資金繰りDI】

○当期の水準は、全業種値、前年同期比ともに▲13.9となっており、当期の水準で「製造業」は11.8とプラスを示し、「建設業」「水産加工業」は±0.0を、他3業種でマイナスの値を示した。

○次期見通しについては、前年同期比で全業種値▲18.5となっており、うち水産加工業では8.3の値を示したものの他の5業種ではマイナスの値を示し、厳しい見通しを予測している。

	資金繰りDI						従業員DI			
	当期の水準		当期の前年同期比		前年同期比の次期見通		当期の水準		当期の前年同期比	前年同期比の次期見通
	10月～12月		昨年10月～12月と比較		1月～3月予測		10月～12月		昨年10月～12月と比較	1月～3月予測
全業種値	▲13.9	↗	▲13.9	↗	▲18.5	↗	▲27.2	▲15.2	▲5.4	
①製造業	11.8	↗	5.9	↗	▲5.9	↗	▲35.3	▲29.4	±0.0	
②建設業	±0.0	↗	▲10.5	↗	▲31.6	↗	▲15.8	▲15.8	▲5.3	
③卸売業	▲30.8	↘	▲30.8	↗	▲7.7	↗	▲23.1	7.7	7.7	
④小売業	▲33.3	↗	▲40.0	↗	▲33.3	↗	▲13.3	▲6.7	▲13.3	
⑤サービス業	▲25.0	↗	▲12.5	↗	▲31.3	↗	▲43.8	▲31.3	▲12.5	
⑥水産加工業	±0.0	↗	±0.0	↘	8.3	↗	▲33.3	▲8.3	▲8.3	

【従業員DI】※従業員DIは、プラス値で過剰、マイナス値で不足を表す。

○当期の水準は、全業種値で▲27.2となっており、「サービス業」▲43.8、「製造業」▲35.3など、全業種不足を示した。前年同期比では、全業種値で▲15.2となり、「卸売業」で7.7と「増加」となったほか、他の5業種では「減少」となった。

○次期見通しについては、全業種値では前年同期比▲5.4と「減少」を予測しているが、「卸売業」では7.7と「増加」を予測し、「製造業」では±0.0を予測している。

【経営上の問題点について】…問題点は各業種によって異なっているが、上位には「需要の停滞」36件（14.5%）、「原材料価格の上昇」35件（14.1%）、「従業員の確保難」24件（9.6%）の順となった。（94事業所 回答249件・重複回答可）

〈製造業の主な問題点（回答17事業所）〉

「原材料価格の上昇」13件（76.5%）、「従業員の確保難」と「熟練技術者の確保難」がそれぞれ6件（35.3%）の順であった。

〈建設業の主な問題点（回答19事業所）〉

「資材・材料価格の上昇」11件（57.9%）、「資材・材料の入手難」7件（36.8%）、「請負単価の低下・上昇難」「官公需要の停滞」「民間需要の停滞」がそれぞれ6件（31.6%）の順であった。

〈卸売業の主な問題点（回答12事業所）〉

「仕入単価の上昇」7件（58.3%）、「需要の停滞」6件（50.0%）、「人件費以外の経費の増加」4件（33.3%）の順であった。

〈小売業の主な問題点（回答15事業所）〉

「需要の停滞」7件（46.7%）、「消費者ニーズの変化への対応」「仕入単価の上昇」がそれぞれ6件（40.0%）の順であった。

〈サービス業の主な問題点（回答16事業所）〉

「材料等仕入単価の上昇」9件（56.3%）、「従業員の確保難」8件（50.0%）、「人件費以外の経費の増加」7件（43.8%）、の順であった。

〈水産加工業の主な問題点（回答12事業所）〉

「原材料価格の上昇」11件（91.7%）、「原材料の不足」7件（58.3%）、「人件費の増加」5件（41.7%）の順であった。